

事業名	諸費(技術管理課)		
細事業名	協議会等会費	財務コード	778201
担当部課室	県土整備 部	技術管理 課	技術基準 担当 (内線) 7155

事業の概要

実施期間	始期 H4 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助(やまなし魅力ある建設産業推進協議会、建設広報協議会)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 県民	その対象をどのような状態にして 公共建設事業の重要性、必要性を理解している	結果、何に結びつけるのか 魅力ある建設産業の推進
	やまなし魅力ある建設産業推進協議会(CCI山梨) 実業高等学校等学園祭への出展 防災啓発(災害時建設関係者活動)PRパネル 中部横断自動車道、新山梨環状道路PRパネル、走行イメージ映像等 記録的豪雪への対応事例の展示 県土建設写真コンクール入賞作品展示 建設業なんでも相談コーナー 建設現場優秀技能者の表彰(16人) (社)山梨県建設業協会、(社)山梨県建設技術センターと共催 建設広報協議会 国土建設事業に関する広報・宣伝等		
事業の内容 主にH26年度	平成26年度負担金内訳 ・山梨県 300千円 ・(社)山梨県建設業協会 100千円 ・(社)山梨県建設技術センター 100千円 計 500千円		
根拠法令等	県出納局「会計事務ガイドブック」		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	25年度	26年度		27年度	28年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	イベント来場者(延)	約1,300人	約1,300人	約1,300人	約1,300人	約1,300人	活動指標 目標設定の考え方 負担金に応じた事業を展開しており、その参加者の人数を目標値とした。 データの出典等 やまなし魅力ある建設産業推進協議会実績報告書
	表彰者数	17名	15名	16名	15名	15名	
	活動指標達成率(実績値/目標値)			%			
成果指標	来場者のうちCCIのブースを訪れた人数	-	375人	380人	375人	375人	成果指標 目標設定の考え方 土木建設系学科の生徒数の1.5倍の人数を目標値とした。 データの出典等 やまなし魅力ある建設産業推進協議会実績報告書
	成果指標達成率(実績値/目標値)			101.3 %			
	決算額又は予算額(千円)うち一財額	345		345	350	350	
所要時間(直接分)	120 時間		120 時間	120 時間	120 時間	イベントを通して、県民に対し建設業の重要性、必要性が伝わることによって、県民の公共事業に対する意識の高揚や建設業のイメージアップにつながっている。	
所要時間(間接分)	0 時間		0 時間	0 時間	0 時間		
所要時間計	120 時間		120 時間	120 時間	120 時間		
人件費コスト 単位:千円 (@2,048円×所要時間)	246		246	246	246		

これまでの事業の見直し・改善状況

予算の縮小(H24[110万円]、H25[70万円]、H26[50万円])による規模縮小のため、平成25年度から、公共工事の現場見学会を中止するとともに、PR展示等の会場を、県民の日記念行事(小瀬スポーツ公園)から実業高等学校園際に変更した。

活動量と成果の判断(平成26年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H26年度活動指標の達成率		実業高等学校等学園祭への出展は達成率100%、建設現場優秀技能者の表彰は達成率106.7%であり、予定された事業は実施しており、全体的に概ね目標を達成し、予定された活動量を上げている。
	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること
H26年度成果指標の達成率		CCIブースへの来訪者は、目標値を上回る380人であり、意図した成果を上げている。
	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成28年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	平成27年度は若者だけでなく、多くの県民にPRができる県民の日記念行事を開催する小瀬スポーツ公園に戻した。 さらに、平成28年度より、パネル展示によるPRと平行して、国交省が所有している体験型の「自然災害体験車」「降雨体験車」などを設置し、来場者が近年各地で起きている災害を疑似体験することにより、来場者に防災意識と建設業の重要性についての理解を促す。	m

・「以外の判断項目」の欄
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成28年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
改善済み	平成27年度は、多くの県民にPRができる小瀬スポーツ公園で開催をした。 さらに、平成28年度に向けて国交省所有の「災害体験車」の借用ができるよう調整を行った。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること